

「会話」こそが最強の処方箋。 黄金商店街が守り抜く アナログの逆襲。



新開 俊仁さん
黄金地区商店連合会 会長



キトウの贈る言葉

「会話」という一番アナログな価値を、真正面から守り続けている新開会長。便利さや効率の時代に、あえて「人の時間」を選び続けている姿勢。黄金商店街の強さを感じる理由は、新開会長たちの静かな覚悟の積み重ねから！

「最近、誰かと笑って話しましたか？」

スーパーのセルフレジや無人のキャッシュレス店舗。便利さと引き換えに、僕たちの街から「会話」が消えようとしています。でも、僕はこの黄金商店街で、40年間ずっと信じ続けてきたことがあります。それは、商店街の本当の価値は「対面販売」という名の、温かなコミュニケーションにあるということです。

黄金商店街は、かつて百店舗以上がひしめき合った歴史ある場所です。今は再開発で古い建物は姿を消しつつありますが、お肉屋さん、お魚屋さん、八百屋さんといった「生鮮」の力強さは今も北九州随一だと自負しています。

ここを歩けば、「今日の魚はこれがいいよ」「美味しいコーヒーの淹れ方はね」なんて会話が、あちこちから

聞こえてきます。6月の夜市では2千人が路地をゴった返し、競輪選手が自転車を漕いでかき氷をつくる「チャリ氷」に子どもたちが歓声を上げる。アナログで泥臭いけれど、そこには血の通った「熱」があるんです。

最近では、北九州市立大学の学生たちが自主的に「学生喫茶」を開いてくれています。お年寄りが孫のような学生にスマホの使い方を教わったり、何気ない愚痴をこぼしたり。ある研究によれば、健康に最も大切なのは「運動」よりも「会話」なんです。だとすれば、商店街は街の健康を守るインフラそのものだと思うんです。

数年後、アーケードの一角には新しいマンションやスーパーが建ちます。街の形は変わっても、僕はこの「会話が弾む空気」だけは絶対に絶やしません。

便利すぎる世の中に少し疲れたら、黄金商店街を覗いてみてください。そこには、忘れていた「人と人が向き合う温もり」が、今も変わらず息づいています。



黄金商店街

<https://kogane-ichiba.jp/>

